発表要旨

日本語と現代ギリシア語の《友》に関する諺対照研究

浮田　三郎

近年、諺の表現に関する考察を試みているが、今回は、「友」に関する諺の世界で、日本語と現代ギリシア語の諺を対照比較してみた。

友の存在は何であろうか。人間には、自分の心を自分以外の誰かに知ってもらいたいという本能的な欲求がある。孤独を救ってくれるものが友である。

ギリシア人の「友」に対する態度は、「フィロクセニア」といってホメーロスの世界から存続しているとギリシアの友が語っていた。この「友を大切にする心」は、しかしながら古き良き日本にもあったような気がする。例えば、

(G) Αγάπα τον φίλο σου, με το ελάττωμά του.

汝の友を愛せ、彼の欠点とともに。

そして、「最良の友のあり方」について、次のように言う。

(G) Ο φίλος στα δυστυχήματα φαίνεται και στην ανάγκη.

不幸な折の友は必要な折にも現れる。

(J) 遠き親戚より近くの友

また、日本で特徴的なのは、「馬は馬連れ牛は牛連れ 」などと、同じ仲間がお互いに一番理解し合えると言う。ギリシアで特徴的なのは、「友には期待しすぎてはいけない」というのがある。

そして、両国共通に友情はまた傷つき易く壊れやすいとも言う。例えば、

(G) Η φιλία φέρνει κι έχθρα.

友情はまた敵意ももたらす。

(J) 友は得難く失い易し

などのようにである。その他に、両国共通の世界では、「打算の上での友」もいるし、「旧友」に関しても、「結びつきの度合い、付き合いの期間」、「友の感化」や「友情の性質」に言及する諺も見られるが、民族の文化・風俗を反映して、それぞれの表現の仕方は異なっている。